

【高校生の部】独立行政法人国際協力機構 理事長賞

金沢大学人間社会学域学校教育学類附属高等学校2年 橘 葵衣

この度は、JICA 国際協力中学生・高校生エッセイコンテストにおいて、独立行政法人国際協力機構理事長賞という大変光栄な賞をいただき、心より感謝申し上げます。自分自身の経験や問いを言葉にした作品が、このような形で評価されたことを、大変うれしく思います。

本作品で私が伝えたいのは、環境問題や国際的な課題を考えると、客観的なデータや目標だけでなく、一人ひとりの「主観」に向き合うことの大切さです。能登での経験や水の研究、海外での交流を通して、宗教や文化、生活背景によって「当たり前」が大きく異なることを実感しました。同じ課題を前にしても、人によって見えている世界は違います。その違いを出発点にしなければ、解決は表面的なものになってしまうと感じました。

エッセイを書く過程は、これまでの体験や行動を振り返り、それらの意味を自分なりに整理する時間でもありました。日々の研究や対話の中で感じてきた違和感や迷いを言葉にすることで、自分がなぜ行動してきたのかを、初めてはっきりと捉えることができたように思います。そして、このコンテストが、文章表現だけでなく、課題への理解や提案、解決に向けた行動そのものを重視して評価してくださる点は、私にとって大きな支えとなりました。だからこそ、受賞の連絡を頂いたときは、文章だけでなくこれまで積み重ねてきた行動そのものが肯定されたように感じ、自分の歩みに自信を持つことができました。

本作品は、家族、学校の先生方、地域の方々、そしてこれまで出会ってきた多くの人々の支えがあって完成しました。この場をお借りして、心より感謝申し上げます。

これからも、科学的な視点と一人ひとりの主観を大切にしながら、対話と行動を重ね、世界の幸せを未来へつなげていきたいと思っています。